
バタフライエフェクト

ろう若男によ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バタフライエフェクト

【Nコード】

N7112Y

【作者名】

ろっ若男によ

【あらすじ】

「ある場所^{バタフライ}で蝶が羽ばたいたらその影響^{エフェクト}で地球の裏側では嵐が起くる」

バタフライエフェクトとは、ほんの些細な一挙一動が世界にとても大きな変化をもたらしている、という意味らしいです。

そこで、少しの行動で登場人物達の世界が大きく変化していく様を書きたい、と考えたタイトルです。

例えば……デブが痩せたら、その人の世界はどう変わっていくの

でしゅか……。

デブ

走る、腹筋、グレープフルーツ……走る、背筋、グレープフルーツ……走る、腕立て、グレープフルーツ……走る、腹筋、グレープフルーツ……走る、背筋、グレープフルーツ……走る、腕立て、グレープフルーツ……走る、腹筋、グレープフルーツ……走る、腕立て、グレープフルーツ……走る、背筋、グレープフルーツ……。

僕はまだ高校一年生に成り立てのティーンエイジャーだ。確かに年配の皆様方には、最近の若いもんは……、と言われてしまうような若輩者であろう。

だが、それでも……それでもそんな僕にだって持論という物の一つや二つはある。

まず、あなたがたに手始めに一つ言っておきたい。

オタクの本気はなめない方が賢明だ！

では、その根拠を説明するために少し時間を頂こう。

半年前、それは僕にとって中学三年生の秋に当たるのだが、僕はクラスでひどく蔑あはまれていた。理由はルックスの目劣り。

ここで、分かり易く伝わるようクラスの女子の言葉を引用してみよう。

「醜いわデブ！」という罵り。

「ヤバイ、ヤバイ！」という談笑。

「第一だいいちまず、喋り方がキモイって！」という大前提。

これで、クラスでの僕については十分に御理解いただけたことだ

ろう。

では、家での僕についても少し触れておきたい。

家族構成は、父、母、妹、僕——という四人家族だ。僕の家での生活空間は、もっぱら二階にある自室。

そして、そこで何をしているか。

もちろん小説を読んだり、たまに勉強をしたりもする。

だが、そのほとんどは——PCのギャルゲーやアニメで美少女を愛でている、と言っても過言ではない。

ここまで古傷が痛まぬよう遠まわしに長々と、僕の生活と人物像について言及してきた訳だが、端的に言おう。

僕は、顔が醜くデブでオタクだ。

では、僕はなぜオタクをなめない方が良いという持論に至ったのか。

それは……走る、腹筋、グレイプフルーツ……走る、背筋、グレイプフルーツ……走る、腕立て、グレイプフルーツ……走る、腹筋、グレイプフルーツ……走る、腕立て、グレイプフルーツ……走る、腹筋、グレイプフルーツ……走る、背筋、グレイプフルーツ……走る、腕立て、グレイプフルーツ……

有酸素運動、無酸素運動、果物……だけで半年間を生きた。

きっかけは、PCの画面に反射して映った肉で弛んだ僕の顔——。僕が当時、愛でていたレイちゃんの横に映った醜い僕の顔——。

あれ？——痩せたらイケメンじゃね？

僕の持論二つ目。

オタクの思い込みの激しさは、なめない方が賢明だ。

走る、腹筋、グレープフルーツ……！

それから、半年。

結果報告——痩せた、イケメンだった。

これは、高校デビューを^{もくろ}目論む僕がこれから美少女達と過^{すご}す（予定の）日々、僕のシンデレラストーリー（になる予定）を綴^{つづ}っていく物語である。

それでは最後に、僕の二つや三つはある持論。

その三つ目を、学生生活で虐^あげられ泣いた心を隠してPCの前で美少女を愛でるしか術のない、その中高生諸君に言っておこう。

「痩せれば良いと思うよ」

シンデレラ 1

あるところに、とても心が優しくとても美しい娘がいました。しかし、悲しいことに娘の母親は重い病気を患って早くに亡くなってしまうしました。

そこで、父親が二度目の結婚をしたので、娘には新しい母親と二人の姉ができました。

ところが、その新しい母親と二人の姉はとても意地悪だったのです。

そして、新しい母親は自分の娘達よりも綺麗な義理の娘が気に入りませんでした。

娘は当然のように家事全般を強要されました。

娘がご飯を作っている間に、母親はリビングでテレビのワイドショーを見る。

娘が掃除機をかけている間に、姉は携帯でメールを送る。

娘が洗濯物を干している間に、もう一人の姉はPCでネットサーフィン。

気弱な父親は母親を恐がって文句の一つも言えない。

そんな日々が繰り返されていたある日。家族そろって夕食を食べていた時のことでした。

「実は、僕と奈美の昔からの友人がいるんだけど、そいつの息子がこの辺りの高校に入学するらしいんだよ。それで、実家通いするには遠いからこの家に居候させてくれないか、って頼まれたんだが…」

…」

と気弱な父親は、意地悪な母親の気を覗うような声で言いました。ちなみに、奈美というのは前の母親の名前です。

「へえ……。あんたの安月給で四人もの子供を養っていけるんだ？ 私が何でわざわざ、あんたみたいなブサイクな奴と結婚したと思ってるの？ あんたが私達に苦勞をかけずに養うって言ったからで

しょ！」

意地悪な母親は気弱な父親に向かって激昂しました。

「違うんだって。待ってくれよ。その友達っていうのが結構な金持ちでさ。その息子が通うのも有名な私立だって言うし。その子を養うのにかかる以上の金額を必ず渡してくれるはずだよ」

気弱な父親は慌てて言いました。

「ああ。そういうことは早く言いなさいよ。それだったら、まあ良いんじゃない」

意地悪な母親は、どうしても良さそうに言いました。

「ちよつと待ってよ。そいつ、男なんですよ。そんなの私達が迷惑よ！」

「そうよ。大体どんな奴かも分からないのに、キモイ奴だったら超面倒くさいし！」

と意地悪な姉達は口々に言いました。

「まあ落ち着きな、あんた達。私達がそいつをどう扱うかは、相手の出方次第ってことで良いじゃないか」

意地悪な母親は、本当に意地の悪そうな顔で笑いました。

姉達も納得したようで、それ以上はその話題には触れませんでした。

そして、全く意見を求められなかった娘はその事について端から無関心な様子で、手早く自らの食事を済ませました。娘には食器を洗ったりお風呂を沸かしたりという家事がまだまだ残っているのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7112y/>

バタフライエフェクト

2011年11月21日03時11分発行